

【議案第 44 号】

財産の無償貸付について（「道の駅」ゆうひパーク浜田）

議案第 44 号、財産の無償貸付について、私は賛成の立場で討論いたします。

まず申し上げたいのは、本件は場当たりの進められてきたものではない、ということであります。浜田市は、道の駅「ゆうひパーク浜田」の再生に向け、公募型プロポーザル方式により事業者を募集し、審査会での審査を経て優先交渉権者を決定しております。応募者数、得点、募集要項、質問回答なども公表されており、手続きの透明性、公平性は一定程度確保されています。議会としてまず重く受け止めるべきは、この正式な手続きを経て選ばれた事業者であるという事実であります。

また、市の説明でも、ゆうひパーク浜田は単なる建物や貸付先の話ではなく、市民にとっての利便性、観光客にとっての立ち寄り拠点、地元産品の販売、地元事業者との連携、地元雇用の創出、さらには情報発信や防災機能を担う施設として位置付けられております。すなわち本件は、浜田の食と観光、地域経済の導線をどうつくり直していくかという、浜田市の将来に関わる議案であると私は考えております。

もちろん、委員会で出された懸念や意見には、真摯に受け止めるべき点があります。実際に、一定の要望や指摘が示され、それが十分に受け入れられなかったという経過があったことも承知しております。施設の在り方、市民に愛される空間となるのか、地域貢献がより明確に見えるのか、そうした論点は確かに重要であります。

しかし私は、要望の一部が受け入れられなかったことと、本議案そのものを否決すべきこととは、別の判断であると考えます。本会議で私たちが問うべきなのは、個別の論点になお課題が残るとしても、それをもって浜田市全体の利益に資する再生の動きをここで止めることが妥当なのかどうか、その一点であります。

今回の事業者選定においては、地域貢献、地元事業者の活用、地元雇用などが募集段階から要件として示されております。さらに委員会で示された整理でも、地元産品の取扱い、農業との連携、イベント活用、交流機能の強化など、地域との接点をつくる具体的な方向性が確認されております。十分か不十分かの議論はあったとしても、少なくとも浜田市への貢献を無視した提案でないことは、手続き上も内容上も確認されていると見るべきであります。

また、市が指定管理ではなく長期貸付という方式を選んだ理由についても、法改正を踏まえつつ、市が施設を保有しながら民間ノウハウを活かすためであると説明されています。これは、従来どおりのやり方だけでは立て直しが難しいという現実を踏まえ、再生の可能性を広げるための判断であります。つまり本件は、現状維持ではなく、浜田市として再出発を図るための選択であると受け止めるべきです。

私は、正式なプロポーザルを経て選ばれた事業者である以上、その経過を十分踏ま

令和 8 年 6 月定例会議 西田 一平議員 賛成討論

えて判断することが大切だと考えます。その積み重ねを軽く見ることは、今後の行政手続きへの信頼や、官民連携への信頼にも影響を及ぼしかねないと危惧しております。議会が果たすべき役割は、感情的に門を閉ざすことではなく、前に進む価値があるものを見極め、必要な指摘を続けながら、市民の利益につなげていくことではないでしょうか。

私は、浜田市の将来にとって前向きな判断とは何か、その視点でこの議案を見るべきだと考えています。ゆうひパーク浜田は、浜田の食と観光の可能性を広げる拠点です。ここをどう再生するかは、浜田がこれから外から稼げるまちになれるか、市民にとって誇れる場所をつくれるか、その分かれ道の一つだと私は思っています。

もちろん課題はあります。意見もあります。要望が十分に通らなかった、その不満や悔しさもあると思います。しかし、それでもなお、課題があることを理由に、再生への挑戦そのものをここで止めてしまってよいのか。私は、そこに強い疑問を持っています。

すべてが完璧でなければ前に進めない、という判断では、浜田の未来は切り開けません。課題があるなら、これからも厳しく見ていけばいい。必要な指摘も続ければいい。しかし、前に進む価値のあるものまで止めてしまえば、残るのは改善ではなく停滞です。

私は、浜田の未来に必要なのは、萎縮ではなく挑戦、停滞ではなく前進だと信じています。正式な手続きを経て選ばれ、浜田に貢献しようとしている事業者とともに、この拠点をより良いものへ育てていく。その方向性こそが、浜田市にとって前向きで、現実的で、責任ある判断だと考えます。よって私は、本議案に賛成いたします。議員各位におかれましても、本市の将来と市民全体の利益という観点からご判断いただき、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。